

文献整理

皮膚科学講座 大畑 千佳

図書館をよく利用するようになったのは、学生時代ではなく研修医になってからだ。難しい症例に当たった時や学会発表のたびに図書館に通った。私が研修医の頃は、PDF (Portable Document Format) などという便利なものはなかったので、ひたすらコピーを取った。コピーする文献の量が多い時には、「文献収集は肉体労働」と感じるほどだった。当時はそのコピーした文献をどのように整理するか悩んでいたが、A4 サイズの文書保存箱を大量に買い込み、疾患別に分類し本棚に収納するという方法に落ち着いた。後に利用するときには便利だろうと考えたためである。ところが、せっかく保管した文献を再度利用することは、残念ながら一部のものを除きほとんどなかった。

そして、あっという間に文献はPDFで読むという時代がやってきた。学内でも学外にいるときでも久留米大学の図書館のシステムに入れば、多くの雑誌の文献をPDFで入手できる。とても便利である。最近では論文を書きながら文献を集める作業を並行して行うことが多い。「この考察をサポートする文献を見つけて、それを次の文章のreferenceにしよう。」などと考え、文章を書きつつ文献検索を行うのである。文献をPDFで入手できると思考が途切れない。これがあるがたい。ところが時折、PDF化されていない古い文献や新しくてもPDFのダウンロード契約がない文献の時に、図書館で実物の雑誌を借りなければならない事態が発生する。仕方なく図書館に赴くことになるのだが、もうコピーを取る気にはならない。製本された雑誌を借り、医局で自らPDF化し保存する。

しかし、お手製のPDFは検索機能が使えないのであまり使い勝手が良くない。また、なかなかまっすぐにPDFを作ることができないのもなんだか落ち着かない。微妙に1-2度傾く。そして、そんなことに気を取られているうちに、本来、従事していた論文から思考が大きく逸れていることに気づく。ああ、何たる時間のロス！切りの良いところから自分の論文を読み直し、元の思考回路に戻らなくては！

PDFは名前の付け方に工夫を凝らすことで、自分のパソコン上にあるかないかを検索することが容易である。もはや文献整理などということは全く行う必要がなくなった。本当にありがたい。Citation managerの進歩にも目を見張る。私はEndNoteを使っているが、論文を書くときだけでなく、業績を報告するときにも使用できとても重宝している。久留米大学の職員であれば、図書館のサイトからEndNote Webが無料で使える。本当に便利なので使わない手はない。EndNoteを自前でお持ちでない方に超おススメです。